

提案事業プレゼンテーション Aグループ		
時間	提案事業	委員
①10:20～10:40	交流の場の提供とレッキーマラソンコース沿いの環境整備事業 《七宗町》	加藤武志委員 林 尚史委員
②10:40～11:00	「龍神さんが棲む箱庭のまち」まちづくり事業 《七宗町》	
③11:00～11:20	ボート王国プロジェクト事業 《川辺町》	
④11:20～11:40	野外フェスティバルからはじまるあたらしい地域コミュニティ事業 《八百津町》	
⑤11:40～12:00	里山アートプロジェクト事業 《美濃加茂市》	
⑥12:00～12:20	Kiso ジオパークにぎわい創出事業 《美濃加茂市》	(事務局) 大畑英樹

※主な意見と質疑応答（発言は要約しています）

<交流の場の提供とレッキーマラソンコース沿いの環境整備事業 七宗町>

林 尚史委員

活動を継続していくためにも若い人材の存在は重要です。地元に住ないのであれば、周辺の市町村から巻き込んでいくことも視野に入れた方が良いと思います。

「ホテル」というキーワードは面白いと思います。ですが、事業名に反映されていないのが気になります。これでは地元住民も惹かれない可能性があります。

成功例の一つに、「コウノトリ」をキーワードにした、町の環境整備事業があります。コウノトリが居る環境は、水辺があって綺麗な環境です。そのイメージを「コウノトリ」というフレーズに置き換えることで、子どもにもイメージしやすくしています。

例えば「ホテルの舞う町」など、老若男女イメージしやすいキーワードを掲げて、観光という分野を含ませつつ、来訪者を呼び込んでみると良いと思います。

加えて、「環境整備」というキーワードは、何をやっているのかすぐにイメージしづらい部分があり、それを解消するためにフェイスブックなどのSNSを活用し、その日の活動内容などを情報発信して、外の人が分かり易いように視覚化していくと良いと思います。

マラソンイベントはリピート性が高く、全国を回る人もいます。若い世代の参加も多いため、マラソンイベントは町内へ若い人を呼び込む良い機会だと思います。

ランナー以外の、コアな参加者ではない人たちを呼び込むことも大切です。観光的な面を持たせるため、「ホテル」というキーワードを活用してみるのには良いアイデアだと思います。

マラソンに参加する人向けに、宿泊施設を用意するなどの予定はありますか？ 施設が無ければ、空き家をうまく活用すれば、空き家対策にもつながると思います。

七宗町

マラソン参加者は、レッキーマラソン後に別の会場へ向かう人が多く、走るためだけに来町する参加者がほとんどです。空き家問題はありますが、家主側との都合がつかず、宿泊施設となり得る空き家が

ない現状です。

加藤武志委員

イベント参加者が、イベント後も七宗町内で過ごせるような要素は必要だと思います。イベントを盛り上げることが、七宗町にとってメリットになるとは言い難いと思います。

実施主体団体が裏方で事業を進めるのではなく、町内は勿論、都会の人を巻き込んで進めていくと良いと感じます。それには、マラソンランナーだけをターゲットにするのではなく、幅広い客層をターゲットにする必要があります。川の生き物や虫と触れ合う、採れた野草を食べられる、地域の資源に詳しい人がいることなど、町内に存在する様々な資源と触れ合いつつ、環境美化できるイベントを定期的に関催出来たら、参加者だけでなく地元住民も楽しめると思います。成功事例を分析すると、子どもや食べ物にまつわる仕掛けを作ると、親子連れが来てくれる傾向があります。

<「龍神さんが棲む箱庭のまち」まちづくり事業 七宗町>

林 尚史委員

この事業の目的が「地域間のつながり」であるならば問題はありますが、来町者の呼び込みや特産品を製造することが目的ならば、外に対する視点が欠けているように思います。

国道41号線を通る客層がはっきりしているのならば、万人を対象にするのではなく、客層を絞って事業展開した方が良いと思います。

また、客層を絞ることによって、客層が求めるニーズがはっきりします。ニーズが明確になれば、事業の効果も目に見えやすくなるのではと考えます。

加藤武志委員

提案書に記載された内容を見ると、他の市町村の事業と連携しやすいように感じます。例えば取り組みの中にコンサートを開催するとありますが、八百津町の野外フェスティバルと連携できると思います。

しかし、実施項目が多岐に渡っている分、心配な面もあります。エリアで連携していくことは大切ですが、同時に実施する事の難しさは必ず存在します。提案書に記載されている取り組みの中で、最も実行したいこと、あるいは最初に進めたい取り組みはありますか？

七宗町

地域の暮らしの向上を狙っているので、「お助け部会」に力を入れたいです。部会の団体を育てることを前提し、外部の人を招くことのできる特産品やイベントを企画したいです。

林 尚史委員

実施する取り組みの数が多い割に予算額が少ないため、取り組みの全てが実施されない可能性も否定できません。まず、お助け部会に注力し、ある程度の基盤が出来た後に、他の事業を展開していくことが良いと考えます。

いずれにしても、若者をどう巻き込んでいくかが事業継続の鍵です。お助け部会だけだと地域内で完結してしまう為、外との交流につながりづらくなるので、他の部会を上手く連携させて、圏域全体を巻き込んでいくと良いと思います。

<ボート王国プロジェクト 川辺町>

加藤武志委員

ボートという狭いくくりの中に、ボート愛好家以外の一般の人がどれくらい巻き込まれる余地があるのか、波及効果に疑問があります。ボート愛好家にとってはメリットを感じられますが、一部の人だけが得をするように思います。

川辺町

確かにマイナーなジャンルですが、最近ではテレビCMにボートが取り上げられたこともあり、実際に見て知ってもらう事で、ボートを体験したいと感じてもらうことを狙っています。ボートを体験するチャンスを、都会の人に提供したいのです。

また、ボート愛好家は世界的なネットワークを持っています。ボートが教育面や健康面で優れていることを広くPRし、ボートを体験できるチャンスを整備できれば、多くの人に参加してもらえると考えます。

加藤武志委員

接点や存在自体を知らなければ、そこに入り込めないのはどの分野でも同じです。だから、いかに入り込みやすくするかということに配慮しないと、ボート愛好家のためだけの事業となりかねません。

たとえば、ボート愛好家ではないファミリー層が川辺町に偶然立ち寄ったとき、ボートに触れるチャンスはあるのでしょうか。都市圏から見てどんなつながりを持たせることが出来るのかが大切です。

川辺町

ボート教室については試験的に今年度から始めています。情報は中部地方を中心に発信していく予定とし、岐阜県へチラシやポスターを配布し、インターネット上でも閲覧できるような大掛かりな広報を進めています。

林 尚史委員

中部地方という中途半端な目線ではなく、日本一のボートを目指すつもりで、日本全土から人を集めるための様々な環境整備を磨き上げた方が良いと思います。岐阜県には川という資産があります。加えて、事業実施主体者側から、この事業に対して強い熱意を感じる上、地元に関わるプロもいます。良い条件が揃っていますので、徹底的に研究してほしいと感じました。

例えば、ボート競技の参加者向けに、ゲストハウスの用意を予定されていますか。全国の事例の一つに、世界のサイクリストをターゲットにし、倉庫を改装して作った施設があります。有名なデザイナーや建築家を交え、そういった世界規模の「良いもの」を作ると、可能性が広がります。

加藤武志委員

訴える力によって、受け手側の印象が違ふと思います。例えば、表紙の写真一枚でも、誰が見ても目に留まるようなビジュアルを追求していく必要があると思います。

<野外フェスティバルからはじまるあたらしい地域コミュニティ事業 八百津町>

林 尚史委員

音楽フェスティバルは、一定の経済効果があります。それ以外のふくらみ（宿泊施設や他との連携など）をどこまで考えているかが気になります。フェスティバル終了後、地元の魅力を感じてもらうために、周辺の飲食店や宿泊施設などと連携することは意味のあることだと思います。全国の事例の一つに、飲食店とコラボして地元工芸品の漆器を使って、来訪者をもてなす取り組みを行っている地域があります。ぜひ参考にしてほしいです。

また、安全性の仕組み作りも考えると、客層が増える可能性があります。

加藤武志委員

外から見たときのブランドイメージと、実際に開催された内容にギャップがあって、来た人が「ださい」と感じてしまうことは避けてほしいです。他のビッグフェスタとは一味違うことが大切です。

美濃加茂市との連携において、単純にシャトルバスでつなぐだけでは安易な気がします。フェスティバル以外の交流やイベントを考えていくべきだと思います。これは、予算のあるうちにステップが整えられると良いと思います。

林 尚史委員

事業の中身も大事ですが、本日、実施主体者自身の口から直接事業に対する思いを聞いた事で、本当にやりたい気持ちが伝わってきました。このような人材が居るという事は、地域にとってプラスになると思います。あとは周辺をどう巻き込むかに注力してほしいです。

助成金なしに事業を立ち上げることが出来る人材が、事業のさらなる発展のために助成金を使用しても、きっと無駄にならないと思っています。

加藤武志委員

他の地域と相乗りが出来ると面白いと思います。年代問わず参加できるイベントで、老若男女で交流できると良いですね。

林 尚史委員

地域のブランドは点で繋ぐことが出来ません。本日、せっかくたくさんの事業主体となる関係者がいるので、ぜひ横のつながりも大切にして取り組んで欲しいと思います。

<里山アートプロジェクト事業 美濃加茂市>

林 尚史委員

まちづくりに芸術関係の要素が入ると、地域ネットワークなどのクオリティが格段に高くなります。その面でこの事業は、ハードとしては、本日の中では最も高いと思います。

心配なのは、資金の切れ目が縁の切れ目になってしまう事です。これは、アート系の事業でよく聞く事例です。連携する関係者のモチベーションがどの程度なのか気になりました。

美濃加茂市

招待する芸術家のファンは若い人が多いので、ある程度の客単価が確保できるものと思います。行政としても事業が継続することを前提に進めていますし、協議会などを立ち上げて、主体機関を変更して

進めていくやり方もあると思います。そういう面で継続性をクリアできないかと考えています。

林 尚史委員

学生が参加することで、その学生が大学を卒業する際に、地元の企業に就職する可能性も高まるため、地元にとって良い効果があると思います。

加藤武志委員

ネーミングに関して少し気になります。「日本昭和村」と付けてしまうと、昭和村自体のイベントとしてとらえられてしまう可能性があります。継続を重視するならば、継続性の高いネーミングが求められます。学生を交え、関わる人全員で、名称とロゴを考える機会を設け、人を引き付ける名前にすることが重要です。既に人材の斡旋も進んでいるので、ある程度固められるのではないかと思います。この提案事業は、事業実施後の効果について考える段階に来ていると感じました。

林 尚史委員

「里山アート」という名称は、全国的によく使用されています。事業内容は良いものですので、そのあたりの要素を含めて、センスの良いアート事業名にしてみると良いと思います。クオリティ、魅せ方はとても大切な要素です。

加藤武志委員

せっかくアート系の人が多いので、なるべく制約を外してイベントが出来ると良いと思います。例えば、昭和村の外でイベントを行いたい思いがあっても、安全面などを重視しすぎて出来ないとなれば、アートの魅力が無くなってしまいます。

フォーマットを越える提案があるくらいがちょうど良いかもしれません。

<K i s o ジオパークにぎわい創出事業 美濃加茂市>

林 尚史委員

コワーキングスペースは、世代間や職種を越えた人、物事に対して意識の高い人のたまり場になります。ワークショップ形式で、様々な物事の問題提起をする場として使用しやすい場所でもあります。

やる気があってどんどん関わっていける人が場がいなければ、何事も継続できません。いかに人材を集めるかが鍵です。それが成功すれば、サポートするだけの体制に出来ると思います。

加藤武志委員

提案書の内容は正しいと思いますが、実態を把握することが大切です。仕組み作りはとても良いと感じますが、ビジネス的なスキームではなく、本当にやりたいこと、やりたい思いがあるのか、関わる人にとってメリットとなるのか、という事が抜けているように感じます。“この取り組みは良いことだから実行しましょう”では、人は動きません。

コワーキングスペースが作られることは素晴らしいと思います。時間がかかったとしても、ぜひ実行してほしいと思っています。

林 尚史委員

しなければならない、という思いは気づかれてしまうものです。やりたい思いがどれくらいの割合を占めているかが、若者が参加する一番の要素です。大きな家があっても、住む人がいない状態とならないように、気持ちのある事業を進めていくことが必要だ、ということです。

美濃加茂市

中之島公園については、実際活動した人の意見を反映し、構想当初と比べるとかなり変更しました。

加藤武志委員

反映していくのは大切です。しかし、注意しなければいけないのは、その主張が公益性のあるものであるのか、主張者側だけの意見なのかを見極め、否定すべきところは否定する必要はあります。

美濃加茂市

進めていく中で感じたのですが、コワーキングスペースの利用について、中山道の雰囲気合うのかが議論に上がりました。女性企業家の話を聞くと、チャレンジショップなどの小店舗用にスペースを構えた方が、実際にニーズがあるのではないかという意見もあり、コワーキングスペースという意味を維持したまま、ある程度ニーズに合わせていけるのかどうかというジレンマがあります。

林 尚史委員

目的は定めた方が良くと思います。中山道で行うのは、外部の人との交流機関が目的だと思います。しかし、中山道にこだわる必要もないと思います。安く店舗を貸す場合、レギュレーションと町への発展の仕組み作りが必要となります。全国には、安く店舗を貸す代わりにノルマを課す地域があります。もともと商売しやすい場所なので、ノルマをクリアすることができる、やる気のある事業者しか店舗を借りません。このような事例から読み取れるように、町に機能性を持たせる仕組み作りは大切だと思います。

(Aグループ終了)